

市民病院だより

頭の健康を考える (第4回) 手の震えと病気

脳神経外科医師 田渕 和雄

今回は「手の震えと病気」について紹介します。

Q：数年前から親戚の祖母(70歳)の手が震えだし、最近ますます酷くなっています。何が原因なのでしょう。

A：手の震えから疑われる病気は、本態性振戦、パーキンソン病、書痙、アルコール依存症、甲状腺機能亢進症(バセドウ病)、多発性硬化症などがあります。

Q：それらの中で頻度の高い病気はどれでしょうか。

A：本態性振戦は、最もよくある「ふるえ」の病気で、年齢に関係なく、国内では100人に1人程度いると考えられています。手や頸の小刻みな「ふるえ」

は、静止時にはなく、人前や緊張すると酷くなります。

次に頻度の高いのがパーキンソン病です。この病気は、1000人に1人の割合だと言われ、普通50〜60歳代で発病し、じっとしていても1秒間に5回ぐらゐの手の「ふるえ」(振戦)があるのが特徴です。

Q：本態性振戦やパーキンソン病は何が原因なのでしょう。

A：本態性振戦は、「ふるえ」の病気ですが、それ以外に悪いところはありませぬ。つまり、「ふるえ」の体質と言えるでしょう。欧米の統計では、約4割の患者さんで、両親あるいは親戚の方に同様の症状があると言われています。脳に異常はなく、生命にも影響はありません。

一方、パーキンソン病は、脳(中脳)の黒質という部位にあ

る神経細胞が減り、ドーパミンという神経伝達物質が減少するため起こる病気です。パーキンソン病のほとんどは遺伝と関係ありませんが、現在は遺伝するパーキンソン病の家系が判明し、遺伝子レベルでの解析が進んでいます。

Q：パーキンソン病では、「ふるえ」に加えてどんな症状があるのでしょうか。

A：それぞれの症状に程度の差はあっても、以下の4つが主な症状です。

- 1、振戦：片側の手や足がふるえること
- 2、無動：遅くぎこちない動作になること
- 3、固縮：手足の筋肉が固くなること
- 4、姿勢反射障害：何かのはずみで姿勢が揺らいだとき、姿勢を立て直すことができずに倒れたり、歩いていると加速がついて、自分の意志では止まらなくなったりすること

ちなみに、症状が重い患者さんには、医療費の公費負担制度がありますので、保健所に申請してください。

Q：パーキンソン病の治療で注意することはありますか。

A：治療に先立ち注意しておくことは、パーキンソン病と同じような症状でもその原因が、薬剤の副作用、脳梗塞、多系統萎縮などによるものが2割ほど(パーキンソン症候群)ありますので、それらをしっかりと見極めることが大切です。



時間外受診をされる方へ

急病などでの時間外受診の場合は、まず電話で宿日直医師の担当診療科を問い合わせ、来院してください。

【問合せ】小城市民病院 ☎ 73・2161 ホームページ・アドレス <http://www.city.ogi.lg.jp/hospital/>